

山行報告

夏山集中登山（南アルプス）

Bコース 仙丈ヶ岳

日 時：8月21日～22日

L 渡邊 参加者：6名

参加者：足立(美) 金島 狩集 砂川(美) 開

行動記録：8月21日 名塩SA 6:40 多賀SA 8:20 神坂SA 10:10 駒ヶ岳IC 11:08

北沢駒仙小屋 15:20

8月22日 北沢駒仙小屋 4:30 2合目出会い 5:14 4合目出会い 6:15 大滝頭

6:49 小仙丈ヶ岳 8:43 仙丈ヶ岳 10:00 仙丈小屋 10:35 小仙丈ヶ岳 11:33

大滝頭 12:35 二合目出会い 13:39 北沢峠バス停 14:23 仙流荘前 15:30



仙丈ヶ岳に登って

仙流荘からバスに乗った。北沢峠に行くまでの車窓からの景色に圧倒された。身近に迫る高い山、下を見下ろせば絶壁のごとく、遠く高いところに来ているなど実感できた。バスから降りてしばらく歩く。河原に、色とりどりのテントが所狭しと並んでいた。我が高御位山遊会と書いてあるテントをみつけた。「私達も来ました！」と言いたかったが、テントの主はいないようだった。

駒仙小屋につくとEコースの方々もおられて久しぶりの対面、とてもきつかったとおっしゃっていた。あした大丈夫かしらと不安になる。見上げれば、甲斐駒ヶ岳はごつごつと岩肌をみせ、厳しい様相にみえた。白く見えたり、ある時は黒く、夕日に映えて赤く染まったり、七変化のごとく見るたびに様子が変わって見えた。女性的と言われる仙丈ヶ岳にして良かったと思った。(考えは甘かった。) 小屋の夕飯を食べてから、テントの周りでおしゃべりして、中に入ってコーヒーをご馳走になり、時間のたつのも忘れて話こんでしまいました。7時を回った頃小屋へ帰ってみるともう皆さん静か

狩集

に寝ておられた。自分の寝場所に行くのに、人の足を踏みそうになった。すぐには寝付けなかった。初めての雑魚寝の山小屋体験でした。

翌朝4時30分にC、Dコースの方達と駒仙小屋を出発、暗闇の中、ヘッドランプを頼りに、樹林の中、登っては平らな道になるパターンを繰り返して行くと、夜が白みはじめた。急な登り坂をひたすら登って、低木のハイマツやナナカマドが見られるようになってくると、急に展望が開けて周囲の山々が目にはいつてきた。後ろに甲斐駒ヶ岳、目前には小仙丈ヶ岳に続く急坂な登山道が見える。右にツツとすました北岳、その後ろに富士山が少し頭を見せていた。思わず皆歓声をあげて、見入っていました。

景色に見とれていると、「ヤッホー、ヤッホー」と声が聞こえた。しばらくして、会長さんと松下さん、高橋さんが清々しい笑顔で降りてこられた。こうして山の上で再会するのも楽しいものだ。私達は登ってきて息を整えているところに、何日も縦走や小屋泊をされているのに疲れも見せず、さすが難易度最高のパーティだと思いました。

右の北岳やだんだんと大きくなる富士山を見ながら、時折吹く風のさわやかな事、高い山は違うなと感じました。小仙丈ヶ岳でリュックをおいて頂上まで、登ることになった。途中とても険しいところもあり、リュックがないので身軽に行動できてよかった。

何度か頂上かと思いながら、着いた時にC、Dコースの方が出迎えてくれて、感激の握手をしました。360度の名峰が並び立つ壮大な景色を見ることができた。雲海を下にみて登れて良かったとしみじみおもいました。

下山は仙丈小屋に寄り、冷たい南アルプスの水をペットボトルに入れ、一息いれて出発した。藪沢カールを右に見ながら、すこし登り返して、往路と同じコースをたど

ることになった。こんなところを登ってきたのかなと思うほど急な道もあり、長い道のりに感じました。雨や雷にも合わず、素晴らしい山行でした。リーダーの渡邊さんはじめパーティの皆さんにお世話になりました。運転をして頂いた渡邊さん、開さんにお礼申し上げます。初めての夏山登山で、楽しい思い出を有難うございます。



C・Dコース 甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳

日 時：8月20日～22日 L：Cコース 山本 参加者：7名
Dコース 尾内 参加者：4名

参加者：Cコース(小屋泊)井上 北村 荘所 舛賀 和田 蛭田
Dコース(テント泊)切貫 長谷川(孝)森川

行動記録：8月20日 西宮名塩SA 7:10 仙流荘駐車場 13:00～13:30 北沢駒仙小屋・テント場 14:40

8月21日 北沢駒仙小屋 5:00 仙水小屋 5:37 仙水峠 6:18 駒津峰 8:05 六方石 8:49 甲斐駒ヶ岳 10:25 駒津峰 12:30 双児山 13:23 北沢峠 15:00 北沢駒仙小屋 15:15

8月22日 北沢駒仙小屋 4:30 二合目出合 5:12 大滝の頭 6:00 小仙丈ヶ岳 7:45 仙丈ヶ岳 9:55 仙丈小屋 10:50 馬の背分岐 11:10 藪沢分岐 11:27 藪沢大滝 12:43 太平山荘 13:40 長衛荘 14:05 北沢駒仙小屋 14:20

甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳

2回目の夏山、そして2回目のテント泊。甲斐駒ヶ岳と仙丈ヶ岳、向き合っているのになんと対照的な山だろう・・・そして登山客の多い事、特に目を引いたのは若い人の姿を見る事が出来たのが嬉しい。甲斐駒ヶ岳については、頂上がすぐ其処にある



切貫

のになかなか到達出来ない。憎らしくさえ思える。皆と一緒に無かったらリタイヤしているだろう。仙丈ヶ岳は、木々の下を歩くので気持ち良い風に幸せを感じる。頂上からは富士山の姿を見る事が出来、心の中でやったーと叫ぶ。富士山の横に北岳そして御嶽山、

中央アルプス、北アルプスに囲まれ雲海、遠くには槍ヶ岳も見えるではないか勿論、空は青空である。写真、絵でしか見た事のない大パノラマを 62 歳にして自分の目で見ている。ばんざい、感無量、山登りをしてよかったと思う瞬間である。

テント泊をしたキャンプ場は、水が冷たくて美味しく綺麗なトイレが嬉しい。そしてなにより天気だったので調理がしやすく最高のテント泊でした。来年の夏山は、何処かな！と楽しみにしている今日この頃です。皆さん有難うございました。

E コース 鳳凰三山から甲斐駒ヶ岳

日 時：8月18日～23日
参加者：大谷 河合 西村 待場
行動記録：

L：上田 参加者：5名

	着	発		着	発		着	発
<u>8/18</u> 大阪		22:00	高嶺	10:40	10:45	仙水小屋	5:05	5:10
<u>8/19</u> 甲府駅	6:30	7:00	白鳳峠	11:30	12:00	仙水峠	5:45	6:00
夜叉神峠登山口	7:45	8:10	広河原峠	13:05	13:15	駒津峰	7:30	7:45
夜叉神峠小屋	9:20	9:35	早川尾根小屋	13:55		泊 六方石	8:20	8:30
杖立峠	11:05	11:20	8/21 早川小屋			甲斐駒ヶ岳	9:30	10:00
葛平	13:15	13:20	2553m ピーク	6:15	6:25	駒津峰	11:26	11:29
南御室小屋	14:00		泊 ミヨシノ頭	7:30	7:40	双児山	12:30	12:37
<u>8/20</u> 御室小屋		4:40	アサヨ峰	8:30	9:00	北沢峠	14:06	通過
薬師岳	6:45	6:50	栗沢山	10:25	10:40	北沢駒仙小屋	14:20	15:00
観音岳	7:25	7:45	北沢駒仙小屋	12:50		泊 仙流荘	16:30	泊
地藏岳	9:00	9:40	<u>8/22</u> 駒仙小屋		4:30	<u>8/23</u> 仙流荘		9:00

花の鳳凰山から展望の早川尾根をこえて甲斐駒ヶ岳へ

8月18日夜、大阪東梅田の夜行バス乗場に集まったのは、南アルプス北部の4コースで行う2010夏山集中山行Eコースに参加する上田、大谷、河合、西村、待場の5名。ミーティングや猛暑のボッカトレを行って、

他コースより一足早く出発の日をむかえた。

6時半甲府駅着、タクシーで夜叉神峠登山口へ。運転手さんに教えてもらった南アルプスの美味しい水を飲んで、4日間の山行の一步を踏み出す。

8月19日 夜叉神峠から南御室小屋へ

夜行バスでの寝不足の体をほぐし縦走路に入る。唐松にサルオガセが垂れ下がる針葉樹林帯。小鳥の声が迎えてくれるものの、人の気配も無く静寂だ。約5時間をかけ標高を1150m上げるのみ。12キロのザックが憎らしくなってくる。汗でぼとぼとの体、目にも入る汗。小休止の後、立ち上がったとたん両太股が固まって動かない。慌ててたっぷりの塩を口に含み事無きを得る。冷えたのだ。「今日は体調が悪いのかと思ったほどきつかった」と

河合

仲間が言った。1日目はほんとに辛い。南御室小屋の周りはヤナギラン・トリカブト・オトギリソウ等がいっぱいきれい。宿泊客も少なく、コーヒーを沸かし、ゆったりと小屋での時間を愉しみチームがよりまとまっていく。満天の星に、明日の展望を願う。



8月20日 鳳凰三山をこえて早川尾根へ

大谷

3日目の早朝4時40分に南御室小屋を出発。直ぐにシラベの樹林帯に入って、しばらく行くと木立の間から北岳が眼前にしっかりと見え、森林限界を抜けて砂払岳に着いた。後ろを振り返ると富士山が雲の上に鎮座し、廻りの山々より一段と高く聳え立っている。さすが日本一の山！花崗岩、白砂のザレ場等を通して、まるで六甲の風吹岩のような岩場を歩き、薬師岳に…。観音岳へは、起伏の少ない稜線歩きをして下り、赤抜沢ノ頭から賽の河原を往復する。賽の河原では、地蔵仏が何十体と並んでいる。子供の出来ない人が地蔵仏を持って帰り、

お祀りをして、子供が授かると、今度は新しい地蔵仏を持って上がって来て置くと言う話です。赤抜沢ノ頭から早川尾根に進み、白砂の稜線、やせ尾根を通り、高嶺を越えて、急な岩尾根を下って白鳳峠、広河原峠



へと早川尾根小屋までが、随分と長く遠く感じ、とてもしんどかった。

小屋の主人が夕食後、民族楽器のケーナとオカリナで十数曲演奏してくれた。

8月21日 早川尾根小屋から北沢駒仙小屋へ

待場

早川尾根小屋を5時半に出発、3分程上り、振り向くと北岳の雄姿そして地蔵岳の向こうには富士山を望め何かホッとした。日本三百名山のアサヨ峰ではお湯を沸かしコーヒータム、美味しかったことが忘れられません。お天気に恵まれて稜線歩きでの展望も良く甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳・鳳凰三山・

昨年の夏山、八ヶ岳と360度の展望は言い表しようの無いほど素晴らしい絶景に感動した。やっぱり山はいい、山は好き、時間が有れば「もう少しじっとしていたい」気持ちであった。岩場も多く思っていたより厳しかったが、4日間無事に歩いて楽しむことが出来、嬉しく思っています。

8月22日 南アルプスの鋭峰・甲斐駒ヶ岳へ

西村

渓流に沿って、樹林をゆっくりと登って行く。頼りない丸木橋をわたる。倒木・地面と一面にコケが張り付き湿っぽく感じていると、屋久島のようなと言われ、南アルプスで屋久島の気分も味わえるのかと思いました。何度か堰堤をこえて仙水小屋に着く。仙水小屋で飲んだ一杯の水が喉に浸みわたり元気ももらう。小屋から樹林を歩き、岩石帯が現れ仙水峠となる。

仙水峠から駒津峰までは約500mの急登、昨日までの静かな山歩きと違って、追越す人、下ってくる人があり歩きにくい。1時間半の頑張りで駒津峰に立てば、また新たな展望が広がる。ヤセ尾根のアップダウンをくりかえし、六方石から巻道に行く。広い砂礫の斜面をジクザクに登る。空が開けた所が、山頂かと思ったが・・・山頂はその上にあり見えていました。見て登る山頂

は一層長く感じました。同じ感じが下山の時もありました。

出発からちょうど5時間で甲斐駒ヶ岳の頂上に立つ。歩いてきた鳳凰山から早川尾



根、北岳から続く南アルプスの山々、B、Cコースのメンバーが山頂にいるかと思える仙丈ヶ岳は手にとるよう、遠く北アルプスも見える。展望を楽しんで登ってきた道をひきかえす。駒津峰からは双児山を通して

北沢峠に下る。双児山からしばらくの間はハイマツやクマササで展望は開けるが、樹林に入るとひたすら下るだけでした。バスの音・沢の音は聞こえても峠は見えなかった。北沢峠でCコースのメンバーと会う。とてもうれしい気分でした。

お天気に恵まれたこともありましたが、

山行をふり返って

4日間歩きとおすには、それぞれ苦しいときもあったと思うが、無事に山行を終えることができたのは、晴天に恵まれ雨や雷の心配なく歩けたこと、疲れを忘れさせる素晴らしい展望を満喫できたこと、鳳凰山の固有種ともいえるホウオウシャジンやタカネビランジも咲いていたし、ヤナギラン、トリカブト、オヤマリンドウなど高山植物

山に登らないと見れない景色・山頂のコーヒータ임을堪能することができました。下山して飲むビールも楽しみました。私一人頑張ってもできるのではなく、周りの人たちの理解と協力がなければできません。感謝しております。ありがとうございました。

上田

にも励まされたこと、山小屋もゆっくり泊まることができ（よく眠れたとはかぎらないが）おいしい水が豊富だったこと、「天気図をみんなで描く」もでき、「5人のパーティ」は行動しやすかった、ことなどがこの山行を成功させたと思う。楽しい思い出に残る山行だった。

Fコース 黒戸尾根から甲斐駒ヶ岳&仙丈ヶ岳

日 時：8月19日～23日

L：砂川 参加者：3名

参加者：松下 高橋

行動記録：

8月19日		横手、白洲分枝	7:50	駒津峰	10:00	出発	5:00
姫路駅出発	8:00	刀利天狗休憩	10:20	双児山	10:50	仙丈小屋	6:00
養老SA	11:00	5合目小屋跡	11:25	北沢峠	12:20	仙丈ヶ岳	6:40
屏風山SA 昼食	12:00	七丈小屋	12:44	2合目休憩	13:10	休憩	7:50
諏訪湖SA	13:55	8月21日		3合目休憩	13:45	大滝ノ頭5合目	8:25
尾白川溪谷	16:00	出発	5:00	大滝ノ頭5合目	14:30	3合目休憩	8:50
8月20日		八合目御来迎場	6:05	馬の背ヒュッテ	15:20	2合目	9:10
出発	5:10	甲斐駒ヶ岳	8:05	8月22日		北沢峠	9:35

黒戸尾根から甲斐駒へ

甲斐駒ヶ岳の黒戸尾根は、山麓の白州町から山頂まで標高差2200mある名コース。計画立案段階で、リーダーからテントか小屋か再三確認があった。限られた日程で黒戸尾根から甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳まで行くのにテントでは行動時間が長くなり、初めてのテント縦走でパーティーの力量が見えず、仙丈ヶ岳が幕営禁止なので、私も小屋が適当だとは思ふ。しかし、このコースを

松下

選択した時に、パーティーのメンバーとの申し合わせであったことから、テント+小屋で計画を出して貰った。出発前日に天気を確認すると、名古屋、東京方面は曇りが雨となっている。高層予報支援図を見ると、19～20日は僅かに崩れそうな感じで、雨に遭うかなと予想する。

19日、16時頃駒ヶ岳神社駐車場でテントを張る。水場はトイレの水を借りる。

夕飯は先ほど、現地のスーパーで仕入れた食材で、おまかせキムチ鍋を頂く。静かな空間に、夜半過ぎからポツポツ落ちる雨音で目を覚ます。とうとう降ってきた・・・アルプス三大急登の黒戸尾根を、濡れたテントを担ぎ上げるのは無理かもしれない。朝、テントはここで置いていくというリーダーの判断に異存はなかった。

20日、朝5時。ポツポツ落ちる中をお茶を飲んで出発する。登山口の竹宇駒ヶ岳神社から尾白川に架かる橋を渡って、溪流の水音を耳に、鬱そうとしたつづら折りの登山道をゆっくりと登って行く。足元が一面、笹で覆われる笹の平まで約2時間30分。修験道で開かれた険しいコースで、これでもかと、急登が続く。突然、視界が開け、刃渡りと呼ばれている露岩帯へ出る。ここは、ナイフエッジとも言われ、両側が切れ落ちていて、高度感を味わって通過すると、刃利天狗の祠へ到着する。信仰の山らしく大きな剣や刀が何本も祀られている。黒戸山を回り込んで下って行くと、五合目小屋跡へ出る。跡地の斜面に放置された醜いゴミの山に閉



口する。五合目から梯子の登りが続き、高度を上げて行く。鎖場を超えるとやっと七丈小屋へ、12時45分到着。コースタイム内のハイペースだった。テントは置いてきたものの、寝具、食糧などを持った装備では速い？途中、静かな尾根で、抜きつ抜かれつした軽装の



りレポートからは、富士を背に鳳凰の尾根、

地蔵岳のオベリスクがきれいに見える。此処はいつもの夏なら寒いらしく、夜間もストーブは燃したままだった。シュラフは暑くて要らないくらいだった。

21日4時起床、5時出発。七丈テン場を経て甲斐駒を目指して登って行く。朝焼けに染まる雲海に浮かぶ峰々を360度のパノラマで楽しみながら8合目までゆっくり登る。今日は天気もよさそう。絶景に感激しながら雄大な黒戸尾根、鳳凰の峰々、アルプスの山なみ、槍穂、笠、御岳、八ヶ岳など目に焼き付ける。8合目を過ぎると3点確保の岩登りの連続で、重いザックに振られないように、しっかりホールドを確認して登って行く。

甲斐駒山頂、到着が8時05分。駒山頂で七丈の小屋で出会った彼と再会。ここから見る仙丈の山容がすばらしい！鋸の尾根もユニーク。8時30分北沢峠目指して下山開始。

早くもガスが上がってきた。摩利支天へは寄らずにこのまま駒津峰から双児山を経て、北沢峠へ出る。長い樹林帯の中を下って、北沢峠へ12時20分着。12時30分出発で大滝の頭まで登り返し、馬の背ヒュッテへ向かう。このエリアはメジャーで駒ヶ岳山頂からは人で溢れており、共通しているのが皆さん軽装備で、我々のような重装備は珍しい。七丈小屋を出てから、行動時間も7時間を過ぎて登り返しとなると厳しく、休憩の度にへたり込む。馬の背ヒュッテ到着が15時18分。この日の行動時間、10時間18分。ここで、ほぼ限界。これでは、もしテントを持っていたら、歩けたかな・・・??テント縦走するには、体力トレーニングが必要だなと痛感！なんとか、小屋に着いたけれど、今日は土曜日。小屋は満員で場所取りが大変！早々に夕飯の支度にかかる。今夜はジャージャ麺で、またまたおまかせ料理。担ぎ上げた食材は全て使い、ペロッと美味しく生ジョッキ片手にいただいた。混み合う小屋は寝苦しい。

それでも、目を閉じて、努めて明日の為に身体を休める。

22日4時起床。食堂でお湯を沸かして、お茶を飲む。レーシヨンのジフーズにもお湯を注ぐ。5時出発、朝陽が眩しい。途中、山道からカメラの列があった。仙丈のビューポイントかな。駒は花が少なかった。仙丈が岳へ期待したけれど、カールのお花畑も時期が遅いのか、思ったより少ないね・・・。ここはトウヤクリンドウが他の山域より多いかな。それにしても・・・黒戸尾根から甲斐駒は登り応えのある山だったけれど、仙丈は山容が美しく、駒山頂から眺めている方がいいな。仙丈が岳、山頂

6時34分着。最後のパノラマを楽しんで、北沢峠を目指して下っていく。途中、仲間のパーティーと出会う。Bパーティーが困っていたが、私たちは今日、北沢峠10時のバスに乗る予定なので、申し訳なく思いながら先を急ぐ。途中、珍しい重装備の若者グループに出会い、嬉しく思う。北沢峠9時35分着。高橋さんの“終わった”と言った一言が印象的だった。でも、彼女、1年前よりぐっと成長したと感じた。リーダーが名水を持って走ってきた。“ありがとう”と言われ、パーティーの解散式？ 3人で乾杯！さすが、“意気”と思いながら、・・・感謝するのは私達ですよ。

宍粟 50 山 行者山に登る (標高 787m)

日 時：8月29日(日) L：上田 参加者：20名
参加者：荒尾 岡本 切貫 佐々木 佐藤 澤田(卓) 澤田(律) 嶋澤 清水
須増 砂川(延) 瀬尾 竹内 武田 中嶋 藤田 山本 和田 渡邊(俊)
行動記録：山電高砂駅 7:30 宝殿駅 7:45 登山口 9:15 月谷城跡 9:50
林道登山口 10:25 行者山山頂(昼食) 11:35 行者小屋 12:20 お堂 13:15
登山口 13:35 まほろばの湯 13:55 JR宝殿駅 17:00 山電高砂駅 17:15

行者山山行を終えて

8月29日、宍粟50山の一つ宍粟市一宮町にある行者山を山行する。

当日も、前日までと同様、相変わらずの猛暑であった。山電高砂駅、JR宝殿駅で乗り合わせ総勢20名でチャーターしたマイクロバスで出発した。登山口までの小旅行は童心に返ったような気分である。登山口から林道を歩きながら、黙々と歩き林道から登山口へ変わった途端に勾配が急になり息がきれ始めた。尾根道のような平坦地はすくなく、上りのみの道なき道が多く、木に巻かれたテープの目印がなければ迷いやすい地形の山状であった。

しかし、往路も帰路も林道を中心に木陰が多く頂上付近では27度と予想していたより温度は低く心地よい風が体を冷やしてくれ歩行は比較的スムーズにできたことは

佐藤

幸いであった。この暑い最中に、両足、両手で一步一步歩ける幸せを肌を感じながら

改めて健康に感謝せずにはおれません。787メートルの山頂に到達したときに今までの疲

れ、暑さも吹っ飛び小さな達成感が心地よく感じられた。行者山登山の締めくくりとして、暑さで汗まみれの疲れた体を癒すためのまほろばの湯での入湯で疲れが一気にとれた感じで、その後の一杯のビールは至福のひと時であった。山登りという趣味を与えてくれた人生に乾杯。

